



2023年お勧めの本



消費税がいかに日本をダメにしてきたのか、それが分かる本が左の本です。

消費税が無くなって困るのは経団連や財界であって、**一般国民で困る人は誰もいません**。消費税が無くなれば、日本経済が成長し、豊かな国になるのですから、社会保障費だって心配する必要はありません。消費税は**日本経済にとってサナダムシ**のようなものです。食べても食べても栄養を吸われてしまって、成長ができないのです。

他の国は経済成長しているのに、日本だけがサナダムシのせいで1997年から成長できないのですから、サナダムシを日本経済から排出すればいいのです。インボイスは巨大サナダムシだと思ってください。

この本を読めば、消費税によって弱者から吸い上げられたお金が大企業に回っていく仕組みが分かります。

222弾！に引き続き消費税を取り上げました。日本の未来がかかっているから。

右の本は**学校の先生と子どもを持つ全ての親に読んで欲しい本**です。

何気なく普段使っている言葉が子ども達を呪う言葉になるというのです。僕自身も大いに反省しながら読みました。



2023年2月11日発行



六中1期生の硬式テニス部です。関東優勝、全国3位のチームでした。どうしても慶応普通部に勝ちたくて、関東決勝の前に子ども達は全員坊主、顧問は剃髪しました！(笑)

たかやんのプロフィール



本名たかむらともや
1954年2月11日東京
青山生まれ。
新宿区立西戸山中、
都立石神井高校卒
北海道大学水産学部に進み、**外国航路**

の船長を目指す。大学3年の冬、朝日新聞の”今学校で”を読み、突然教師になる決意をし**無理やり**教職を取る。

1977年新設の新座五中に赴任、**日本で一人だけ新任で中三の担任**となる。それ以来、21年間担任一筋。五中・六中では幸せな教師生活を送るが、二中で管理職と激突！1年で学校を辞め、カナダへ。

その後、石神で「たかやん塾」をはじめ、今に至る。学校だろうが、塾だろうが、**子ども達と一緒にいれば幸せな男**である。

趣味は川掃除と駅立ちとテニスと筋トレ
写真は五中4期生の英樹。我が家に3か月以上居候をしていた子も、もう還暦近くになりました。時の流れを感じます！



結局、消費税って何なの？！

消費税が何に課税されるか知っている人は意外に少ないかも知れません。

消費税は「利益」と「人件費」に課税される税です。企業は人件費に課税されないように、正規雇用をやめ外注するようになります。すると、社会保険料の支払いもないので万々歳という訳です。経団連や財界の減税目的で導入された消費税。輸出大企業には還付金が入る仕組みもあります。20年の1年だけで1.2兆円も還付されています。

当たり前のように大企業は大儲けして、国民の負担は増えるばかり。日本のGDPは上がり、実質賃金は下がり続けました。二世・三世の自民党の国会議員の質の低下と連動していますね。

国の借金はそもそも嘘だし、社会保障費も消費税とは何の関係もありません。消費税の目的は経団連や財界の減税、それ以上でもそれ以下でもない。

だから消費税に賛成するような議員は国会議員だろうが、地方議員だろうが庶民の敵です。消費税廃止に賛成できないのは金持ちの味方か勉強不足かのどちらかだと思います。岸田政権は「子ども予算倍増」の為に消費税を増税と言ってきました。これも嘘。子育て世代は消費税0が有難い筈。

消費税のせいで日本のGDPが伸びないのは明らかなのに。消費税のせいで我々の子どもや孫も正規雇用される可能性がどんどん減っていくのに。

消費税は消費者が払って、事業者が預かる税・・・そんな預かり金という仕組みも実はありません。（本当です）

消費税を払うのはあくまで事業者で消費者ではないのです。3月議会でも再度「消費税廃止」の意見書を提出します。その結果もこの『一生懸命』で報告しますね。どうか、みなさんも消費税を無くす運動の原動力になってください。日本の未来の為に・・・ 

駐車料金の話

新座市内の教職員の駐車料金がこの4月からやっと無料に戻ります。

長い間、財政難という理由で年間18000円の負担をしてきた後輩達からは喜びの声が多く寄せられています。

並木市長とも、この問題で随分戦ってきました。須田前市長も入れたら、15年以上の戦かも知れません。しつこく、しつこく闘ってきた理由は新座市の教育レベルを昔の五中のように県のトップまで上げたかったからです。

『先生達は県の職員です。新座市に行く、他の市と比べて年間18000円も給料が下がったら、誰も行きたくないでしょう。優秀な先生を新座市に呼びたければ、駐車料金を無料に戻さないとダメなんです！』僕はそう言い続けました。そして、遂に並木市長が無料に戻す決断をした訳です。

”市の広報を町内会に入っていない市民も読めるように！！”という主張も最初は拒否されていましたが、何年も訴え続けた結果、須田市長が決断して今は市民の誰もが読めるようになっています。今回の駐車料金の無料化はそれに似ているかも知れません。

一人会派でも小さな会派でも、議会で当たり前のことを訴え続けることは大切なんですね。勿論、今回のことに対しても教育委員会や市の職員の方達の応援があったから実現したのだと思います。決断するのは市長ですが市の優秀な職員の方達の応援がなければこういうことは決まらないのでしょうから。きっと、新座市の未来を考えて、シティプロモーションの観点からも、その方がプラスになる、そう判断してくれたのだと思います。

新座市の小中学校の教育レベルが上がれば、新座市で子育てしたくなる人が増えていくでしょう。みんなの力で魅力ある市にしたいものです。 

